

ポーランド名画ビデオ鑑賞会 2019 (第2回)

2008年アカデミー賞外国語映画賞ノミネート作品

2008年ベルリン映画祭正式出品作品

入場無料
予約不要
どなたでも参加できます

明日を生きていく人のためにそしてあの日
銃身にさらされた愛する人のために
世界が驚愕した歴史的傑作！

KATYŃ カティンの森

アンジェイ・ワイダ監督 2007年作品・映画トーク&懇親会



2019年7月3日(水) (開場 18:00) 18:30~21:20

札幌エルプラザ 4F 大研修室(北8西3、JR札幌駅北口徒歩3分)

トーク：三浦洋 + 『カティンの森』(125分) + 懇談会

(作品とその背景) (北海道情報大学教授)



1939年4月にドイツはドイツ・ポーランド不可侵条約を廃棄し、同年8月ドイツとソ連の間で独ソ不可侵条約が締結された。同年9月1日ドイツのポーランド侵攻で第二次大戦が始まり、9月17日にソ連も同様にソ連・ポーランド不可侵条約を廃棄してポーランドの東部に侵攻した。独ソ不可侵条約の秘密議定書に従って、両国はポーランドへ侵攻し分割占領を行ったのである。

ドイツ軍に追われた人々と、ソ連軍に追われた人々はポーランド東部のブク川で鉢合わせになった。その中に、クラクフから夫のアンジェイ大尉(アルトゥル・ジミエフスキ)を探しに来たアンナ(マヤ・オスタシェフスカ)とその娘ニカ(ヴィクトリア・ゴンシェフスカ)がいた。そこで、逆にクラクフへ向かう大将夫人ルジャ(ダヌタ・ステンカ)に出会う。アンナはルジャ夫人にクラクフに戻るよう勧められるが聞き入れなかった。

その後アンナとニカは、駅でソ連へ連行される直前のアンジェイ、彼の友人イェジ(アンジェイ・ヒラ)らポーランド軍将校たちに出会うことができた。アンナはアンジェイに逃亡を勧めるが、アンジェイは軍への忠誠のため拒否し家族と別れた。捕虜として教会に収容されたアンジェイは

これから起こることを日記に記そうと心に決める。

1943年4月、独ソ不可侵条約を破ってソ連領に侵攻したドイツ軍が、元ソ連領のカティンの森の近くで一万数千人のポーランド将校の死体を発見した。ドイツはこれを1940年のソ連軍の犯行であると大々的に報じた。

その後ドイツが敗北し、大戦が終結した1945年以後ポーランドはソ連の衛星国として復興の道を歩み始めた。ソ連はカティンの森事件をドイツ軍の仕業であると反論し、事件の真相はタブーとなった。苦難を乗り越え大戦から生き残った軍人や国民、カティンで親族を失った遺族らには厳しい現実が待ち受けていたのである。

やがてアンナのもとにアンジェイ大尉の手帳が手渡された。手帳には、殺害の数日前までの出来事が克明に記されていた。アンナはアンジェイ大尉の身に起こったことを改めて認識するのである。

自らの父親もまた同事件の犠牲者であるワイダ監督が80歳のときに取り組んだ作品で、構想に50年、製作に17年かかっている。

原作邦訳はアンジェイ・ムラルチク『カティンの森』工藤幸雄・久山宏一訳、集英社文庫、2009(ja.wikipedia)

アンジェイ・ワイダ(Andrzej Wajda, 1926.3.6-2016.10.9)監督は親日家として知られ、京都賞1987、高松宮殿下記念世界文化賞1996を受賞。代表作:『地下水道』1957、『灰とダイヤモンド』1958、『約束の土地』1974、『コルチャック先生』1990、『パン・タデウシュ物語』1999、『カティンの森』2007、『フレサ 連帯の男』2013、『残像』2016など



※7月1日(月)予定のロドヴィッチ元駐日大使ご夫妻の例会「講演と映画の午後」は中止となりました。